



平成二六年度 秋田県消防功勞者表彰式



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中 田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
http://www.shoubou-akita.or.jp
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
http://www.matsubaraainsatsu.co.jp

平成二十七年全国統一防火標語
**無防備な
心に火災が
かくれんぼ**

平成二六年度秋田県消防功勞者表彰式は秋田県及び公益財団法人秋田県消防協会の共催により、三月一七日(火)午後一時半から、秋田県庁第二庁舎(秋田市山王)で開催されました。式には、受章者など一五〇人が出席しました。

式典は、最初に堀井啓一秋田県副知事が式辞を述べた後、消防庁長官表彰として永年勤続功勞章の伝達、秋田県知事表彰として上小阿仁村に対して無火災表彰が行われたほか、日本消防協会定例表彰として、竿頭綬、功績章、精績章がそれぞれ伝達されました。

続いて、中田潤秋田県消防協会長の挨拶、来賓を代表して佐藤健一郎秋田県議会副議長が祝辞を述べ、最後に受章者を代表して樋渡徹・横手市横手消防団副団長が謝辞を述べました。



式辞(要約)
堀井 啓一
秋田県副知事

日ごろ皆様には、火災をはじめ災害から県民の生命と財産を守るため、昼夜を分かたずご尽力いただき、深く敬意と感謝の意を表します。

受章される皆様には、心からお祝いを申し上げますとともに、支えてこられたご家族や関係者の方々に、厚くお礼申し上げます。

災害から住民を守り、地域の安全安心の確保を図ることは、行政の最重要課題の一つであり、住民・地域・行政が一体となった消防・防災体制を構築することが、何よりも重要であります。

このため県では、東日本大震災や最近の大規模化・頻発化する災害等を踏まえ、災害に強い地域社会の構築を目指して、昨年三月に「秋田県地域防災計画」を全面的に見直ししました。現在、市町村や関係機関と連携して、地震・津波対策の抜本的強化や広域防災拠点の整備、土砂災害



挨拶(要約)
中 田 潤
公益財団法人
秋田県消防協会
会長

危険箇所の周知徹底、防災学習館を活用した防災教育の強化など、総合的な防災対策を推進しておりますが、皆様におかれましても、こうした取り組みに、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本日表彰を受けられます方々には、今後も健康に留意され、豊かな知識と経験を消防組織の更なる発展に生かしていただきますとともに、地域の安全安心の確保に向け、なお一層のご活躍を心からお祈り申し上げます。

栄えある受章を心からお祝い申し上げます。

東日本大震災から四年が経過しました。あの大震災における消防職・団員の懸命な活動は、国の内外から高い評価を頂きましたが、残念ながら多くの殉職者を出してしまいました。誠に痛恨の極みであります。

このようなことを決して繰り返さないためにも、大震災の体験を教訓として、消防体制の整備を更に進めて行かなければなりません。

一方、県内の災害の発生状況をみますと、昨年は火災により三五名の方が尊い命を失っております。また、



秋田県知事表彰



消防庁長官表彰伝達

大雨・突風・豪雪など自然災害の脅威も依然として続いております。

このような中、県民の消防防災に対する関心・期待は高まってきており、消防本部、消防団の任務・役割は益々大きく重要なものとなっております。

私たち消防人は、県民の安心・安全確保という強い願いに応えていくため、一層高い士気の下に訓練を重ね、地域との連携を更に深め、より強靱な体制を構築して、あらゆる災害に立ち向かってまいれる所存であります。

本日受章されました皆様には、これからも地域の消防防災リーダーとして、それぞれの分野でご活躍、ご支援賜りますようお願い申し上げます。お祝いの言葉といたします。



受章者代表謝辞



日本消防協会竿頭綬伝達

消防庁長官表彰

◆功 勞 章 (2名)

鹿角市消防団	団 長	黒 澤 文 男
湯沢市消防団	団 長	近 野 宗 一

◆永年勤続功労章 (76名)

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	荒 川 康 紀	由利本荘市消防本部	消 防 監	佐々木 助 行
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	菅 政 美	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	菅 原 一 男
秋田市消防本部	消防司令長	石 川 昌 彦	能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	大 山 敏 美
横手市消防本部	消防司令長	小 野 一 男	湖東地区行政一部事務組合消防本部	消防司令長	菊 地 徹
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	小 林 俊 美	由利本荘市消防本部	消防司令長	齋 藤 啓次郎
秋田市消防本部	消防司令長	櫻 田 寿 明	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	沼 倉 博 巳
男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消防司令長	平 野 宅 悦	由利本荘市消防本部	消防司令長	正 木 修 一
横手市消防本部	消防司令長	山 口 寿 悦	男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消防司令長	渡 部 政 司
湖東地区行政一部事務組合消防本部	消防司令長	伊 藤 一	五城目町消防本部	消 防 司 令	佐々木 重 義
にかほ市消防本部	消 防 司 令	須 田 嘉 治	大館市消防本部	消 防 司 令	中 嶋 嘉 英
鹿角広域行政組合消防本部	消 防 司 令	間 藤 喜 吉	鹿角市消防団	副 団 長	内 田 清 隆
湯沢市消防団	副 団 長	佐 藤 孝 吉	由利本荘市消防団	副 団 長	長谷山 肇
横手市横手消防団	副 団 長	樋 渡 徹	横手市山内消防団	副 団 長	藤 原 博
潟上市消防団	副 団 長	門 間 勉	秋田市消防団	副 団 長	横 田 定 和
鹿角市消防団	分 団 長	青 山 秀 樹	大館市消防団	分 団 長	虻 川 弘
横手市大森消防団	分 団 長	阿 部 幸 悦	仙北市消防団	分 団 長	阿 部 正 明
能代市消防団	分 団 長	伊 藤 謙 一	美郷町消防団	分 団 長	大 坂 久 男
秋田市消防団	分 団 長	大 高 敏 夫	三種町消防団	分 団 長	加賀谷 喜 一

横手市大雄消防団	分 団 長	加 藤 昭 一	大仙市消防団	分 団 長	加 藤 元 一
大館市消防団	分 団 長	北 林 久 榮	男鹿市消防団	分 団 長	木 元 一 夫
能代市消防団	分 団 長	木 元 孝 美	大仙市消防団	分 団 長	後 藤 健 敏
由利本荘市消防団	分 団 長	小 松 榮	大仙市消防団	分 団 長	今 野 德 雄
能代市消防団	分 団 長	斉 藤 正 美	仙北市消防団	分 団 長	齋 藤 良 弘
井川町消防団	分 団 長	櫻 庭 新 一	大館市消防団	分 団 長	佐々木 正
由利本荘市消防団	分 団 長	佐々木 義 雄	秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 勲 夫
横手市雄物川消防団	分 団 長	佐 藤 正 英	湯沢市消防団	分 団 長	佐 藤 忠 藏
秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 信 和	羽後町消防団	分 団 長	佐 藤 久 夫
湯沢市消防団	分 団 長	佐 藤 久 夫	男鹿市消防団	分 団 長	鈴 木 耕 悦
仙北市消防団	分 団 長	鈴 木 博	鹿角市消防団	分 団 長	高 田 正 一
大仙市消防団	分 団 長	高 橋 和 美	横手市増田消防団	分 団 長	高 橋 勇 三
羽後町消防団	分 団 長	武 田 継 夫	大館市消防団	分 団 長	武 田 博 康
五城目町消防団	分 団 長	館 岡 三 男	大館市消防団	分 団 長	田 中 信 人
美郷町消防団	分 団 長	照 井 勇 一	北秋田市消防団	分 団 長	長 岐 兼 雄
八郎瀧町消防団	分 団 長	畠 山 政 義	湯沢市消防団	分 団 長	半 田 好 男
横手市平鹿消防団	分 団 長	福 岡 馨	北秋田市消防団	分 団 長	藤 島 勝 政
男鹿市消防団	分 団 長	藤 田 清 秀	大仙市消防団	分 団 長	藤 谷 勉
大仙市消防団	分 団 長	古 屋 昇	北秋田市消防団	分 団 長	森 川 竹 廣
秋田市消防団	分 団 長	山 縣 頼 和	潟上市消防団	分 団 長	山 崎 雄 二

◆竿 頭 綬 (1 消防機関)

由利本荘市消防本部・由利本荘市消防団

秋 田 県 知 事 表 彰

◆無火災表彰 (1 村)

上小阿仁村

日 本 消 防 協 会 長 表 彰

◆特別功労章 (1 名)

秋田県消防協会	会 長	中 田 潤
能代市消防団	分 団 長	

◆表 彰 旗 (1 団)

秋田市消防団

◆竿 頭 綬 (3 団)

大瀧村消防団 横手市増田消防団 東成瀬村消防団

◆功 績 章 (19名)

鹿角市消防団	副 団 長	青 澤 尚 人	大館市消防団	分 団 長	富 樫 たえ子
北秋田市消防団	団 長	金 田 咲 美	北秋田市消防団	副 団 長	太 田 兵 一
八峰町消防団	団 長	本 多 健	三種町消防団	分 団 長	三 浦 泰 昭
八郎瀧町消防団	団 長	齊 藤 和 雄	大瀧村消防団	団 長	池 田 彰
秋田市消防本部	消防司令長	佐藤 重左工門	由利本荘市消防団	分 団 長	齋 藤 安 雄
にかほ市消防団	副 団 長	佐々木 伸 一	大仙市消防団	副 団 長	児 玉 誠 良
大仙市消防団	副 団 長	伊 藤 誠 一	美郷町消防団	分 団 長	佐々木 徹 男
横手市十文字消防団	副 団 長	細 川 祐 一	横手市雄物川消防団	副 団 長	塩 田 勉 修
横手市大雄消防団	副 団 長	小 松 高 義	東成瀬村消防団	副 団 長	鈴 木 修
湯沢市消防団	分 団 長	奥 山 純 一			

◆精 績 章 (47名)

鹿角市消防団	分 団 長	青 山 秀 樹	鹿角市消防団	分 団 長	高 田 正 一
小坂町消防団	分 団 長	熊 谷 聰	大館市消防団	副 団 長	北 村 鉄 正
大館市消防団	副 分 団 長	横 堀 妙 子	北秋田市消防団	副 団 長	杉 渕 一 弘
上小阿仁村消防団	分 団 長	山 形 武 夫	大館市消防本部	消防司令長	大 澤 健 一
北秋田市消防本部	消 防 司 令	中 嶋 誠	能代市消防団	分 団 長	伊 藤 謙 一
能代市消防団	分 団 長	木 元 孝 美	三種町消防団	分 団 長	石 井 秀 基
三種町消防団	分 団 長	加賀谷 喜 一	男鹿市消防団	副 団 長	鈴 木 敏 信
潟上市消防団	分 団 長	川 上 誠	五城目町消防団	副 団 長	千 葉 與 右 工 門
井川町消防団	副 団 長	児 玉 武 夫	秋田市消防本部	消 防 司 令	石 黒 元
秋田市消防本部	消 防 司 令	藤 田 直 巳	秋田市消防団	分 団 長	保 坂 欣 昇
秋田市消防団	分 団 長	米 塚 清 紀	秋田市消防団	分 団 長	小 野 甚 左 衛 門
由利本荘市消防団	分 団 長	佐 藤 治 円	由利本荘市消防団	分 団 長	藤 原 正 利
由利本荘市消防団	副 分 団 長	湯 田 欽 一	由利本荘市消防団	分 団 長	大 友 仁 志
由利本荘市消防団	分 団 長	佐 藤 利 市	にかほ市消防団	分 団 長	佐 藤 正 隆
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令 長	小 林 俊 美	仙北市消防団	副 団 長	林 崎 久
大仙市消防団	副 団 長	佐 藤 文 一	大仙市消防団	副 団 長	高 橋 善 衛
大仙市消防団	副 団 長	佐 藤 裕 藏	仙北市消防団	副 団 長	荒 木 田 俊 一
横手市消防本部	消 防 司 令 長	石 川 丈 二	横手市消防本部	消 防 司 令	長 谷 山 忠 志
横手市増田消防団	副 分 団 長	石 川 実	横手市大森消防団	分 団 長	柴 田 喜 左 衛 門
横手市大雄消防団	分 団 長	加 藤 昭 一	横手市増田消防団	分 団 長	佐 藤 富 男
横手市山内消防団	団 員	小 野 寺 千 代 美	羽後町消防団	分 団 長	黒 澤 利 夫
湯沢市消防団	分 団 長	小 野 寺 良 信	湯沢市消防団	副 分 団 長	菅 茂
湯沢市消防団	副 分 団 長	伊 藤 一	湯沢市消防団	副 分 団 長	寺 田 邦 彦
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令	岩 本 輝 秀			



消防団員募集

地域の安心と安全を守るために、あなたにもできることがあります。

消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員の減少で、地域防災力の低下が懸念

本県の消防団員数は、昭和31年には3万6千人が在籍していましたが、年々減少し続け、平成26年10月1日現在には半分を割り込み、1万7,607人となりました。

地域の消防防災力の低下が懸念されています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。

一人でも多くの方に、消防団活動に参加いただけることを期待しています。

平成27年度主な事業計画

事業項目	実施時期
第1 消防思想普及啓発事業	
1. 火災予防運動の推進	年間
2. 防火ポスターコンクールの実施	平成27年11月
3. 殉職者慰霊に関する事業	
(1) 秋田県消防殉職職・団員慰霊祭	平成27年8月26日
(2) 全国消防殉職者慰霊祭	平成27年9月10日
4. 広報紙の発行とホームページの開設	
(1) 新聞「消防秋田」の発行	毎月1回(1,100部)
(2) ホームページでの情報提供	年間
第2 地域消防防災力向上推進事業	
1. 消防団員の教養研修	
(1) 現地教養研修の実施	年間
(2) 秋田県消防大会の開催	平成27年7月4日
(3) 各種研修会等への参加	
・全国女性消防団員活性化佐賀大会	平成27年10月29日
・女性消防団員教育訓練	平成27年11月7日～8日
・消防団員指導員研修	平成27年11月28日～29日
・消防団幹部特別研修	平成28年1月12日～15日
・消防団幹部候補中央特別研修(男性)	平成28年2月3日～5日
・消防団幹部候補中央特別研修(女性)	平成28年2月17日～19日
2. 消防操法大会の開催	
(1) 秋田県消防操法大会	平成27年9月4日
(2) 全国女性消防操法大会	平成27年10月15日
3. 消防団活動の活性化	
(1) 女性消防団ネットワーク会議の開催	平成27年11月19日
(2) 消防団長研修	平成27年12月10日
第3 消防職団員福利厚生事業	
第4 消防互助会事業	
第5 会議の開催	
(1) 評議員会	平成27年5月22日
(2) 理事会	年3回開催
(3) 会計監査	平成27年4月24日
(4) 消防互助会審議委員会	平成27年4月24日
(5) 消防実務担当者会議	平成27年6月5日

秋田県消防協会第三回理事会が三月一七日(火)、秋田市の「ルポールみずほ」で開催され、平成二十七年度事業計画や収支予算などが承認されたほか、九月に開催される秋田県消防操法大会などについて協議されました。

**平成二十七年度
事業計画・収支予算
承認される**
秋田県消防協会

平成27年度収支予算

(単位:円)

勘定科目・主な事業費	予算額
事業活動収入計	29,122,150
消防互助会掛金	5,664,000
事業収入	248,400
補助金等	12,058,000
負担金	5,075,000
年会費	5,837,000
その他収入	239,750
事業活動支出計	34,230,000
火災予防運動の支部活動費	900,000
消防思想普及啓発費	3,137,000
秋田県消防大会費	971,000
女性消防団員研修費	232,000
秋田県消防操法大会費	1,086,000
支部消防操法大会助成費	900,000
全県消防団長研修会費	257,000
女性消防団ネットワーク会議費	382,000
消防互助会見舞金支出	3,000,000
当期一般正味財産増減	△ 5,107,850
一般正味財産期首残	113,352,000
一般正味財産期末残	108,244,150
基本財産	3,000,000

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 **能代消防センター**
株式会社 **協立**

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

特別研修に参加して

日本消防協会が主催する第四一回消防団幹部特別研修及び第一四回消防団幹部候補中央特別研修は、日本消防会館(東京都港区虎ノ門)において実施されました。

本県から参加した七名の受講者から報告がありましたので紹介します。



横手市増田消防団
副団長
平良木 保

研修は、一月一三日から一六日まで行われました。

研修科目として、日消会長講話、課題討議、発表、危機管理、火災防御、消防団実務、そして消防庁危機管理センターにて消防行政、防災対策視察(東京消防庁救急機動部隊)等で、全国の四六人とともに意義のある研修をすることができました。

会長の講話では、平成二五年一月一三日に成立した「消防団を中核とした地域防災の充実強化に関する法律」について、日消の意見(消防団を中心とした我が国消防のあり方に関する意見)を申し上げたところ、なんと異議もなく、全員一致で

議員立法により成立したそれまでの状況、またこの法律において、消防団を将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在であると位置づけた上で、国や地方自治体に消防団を充実させるための責任があることを明記し、消防団の強化を図ることであると熱く話されたことに、深く感銘いたしました。

四つの課題討議があり、私は「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の具体策」について討議しました。各地域それぞれに応じた取り組みや問題点等、活発な意見交換ができましたし参考にもなりました。

最終日、消防庁の専門官の助言のもと、全体討議、各班の発表がありました。問題点は各班とも同じように感じられましたが、消防団の充実強化のために団員増加を推進し、対策として「魅力あるかつこい消防団づくり」を図るということになったと思います。

このような特別研修に参加させていただき、全国の消防団幹部の皆様と接することができたことは、大変貴重な体験となりました。これを糧に今後の消防活動を頑張っていきたいと思えます。また、このような機会を与えてくれた関係者の皆様に深く感謝申し上げます、報告とさせていただきます。

消防団幹部候補中央特別研修



鹿角市消防団
団員
板橋 知也

二月四日から六日に行われた研修に参加させていただきました。

この研修は、消防、防災に造詣が深い講師から現代の消防団と地域の関わり方、そしてこれからの消防団について等、重要なことを学びました。今回は全国から一三〇名を超える方々が参加しており、各地域の課題や取り組み等、多くの情報を吸収できました。一番の収穫は参加者で交流を深め、全国の団員同士、ネットワークを広げられたことです。

今後もこのネットワークを大切に、今回の研修で得たものを、これからの消防団活動に生かせるよう努力していきます。



能代市消防団
部長
梶原 芳一

この研修に参加させていただき、全国各地の消防団員の様々な活動を知ることができました。

また、講師の先生方の東日本震災を始めとする様々な災害の話聞き、消防団の役割の重要性、消防団

の必要性を痛烈に感じました。それに応えるために、私たち消防団員は日々研鑽を積み、一層努力していかなければと思いました。

このような機会を与えてくれた関係者の皆様に感謝するとともに、研修で得た知識と経験を今後の消防団活動に生かしていきたいと考えております。



秋田市消防団
班長
加賀谷 速人

研修の冒頭で、日本消防協会秋本会長からの講話があり、今後の消防団への期待の大きさを実感しました。

グループ討議では、各消防団の現状と課題について話し合い、団員の確保が急務であることを共感しました。また、他都市消防団との交流を通じ、色々な角度から課題の解決策を考えるよい機会となり、自身のスキルアップにつながったと考えます。

今回の研修で得た貴重なネットワークを活用し、今後も意見交換しながら消防団員として地域のために頑張っていきたいと思えます。



鹿角市消防団
班長
上 蘭 美佐子

二月一八日から二〇日まで行われ

た研修では各班ごとに提示された課題について討議が展開され、各地域での現状を踏まえて、これからの活動について意見を出し合いました。

女性団員と男性団員との壁のない活動、また多岐選択肢を活用しての出来る活動から参加し、そこから活動の視野を広げていくという方法(団員減少の歯止め策として)、しかし全ての活動において、知識、技術は必要不可欠であり、「知っている」と「出来る」ことの違いも肝に銘じ、女性団員も消防団の一員としての意識を強く持つことを考えさせられました。

最後に、秋本会長の言葉です。

「これからは、女性団員の消防力が必要となります。みなさんお力をお貸しいただき、災害時での活躍を期待しています。」改めて、気の引き締まる思いでした。



にかほ市消防団
班長
須田典子

「消防団は地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在」これは、今回の研修の中で私の心に一番響いた法律の一文です。消防団員として大きな「勇氣」をいただきました。そして、一つのテーマについて熱く語り合える全国の素

敵な仲間と出会えたことも大きな収穫です。素晴らしい研修に参加させていただいたことに感謝し、これからも、地域防災力の向上にもっと貢献できる団員になりたいと思えます。



仙北市消防団
団員
大石友子

研修に参加し、貴重な経験をさせていただきました。私のグループに、東日本大震災に遭われた宮城県

恐ろしさを語ってくれました。講話の中で、これからの日本は災害の多い時代になるとの話もあり、女性消防団員も防災対策に知恵をしぼって行かなければならないとの言葉に、胸が熱くなりました。大変素晴らしい研修に感謝し、これからの消防活動に生かしていきたいと思えます。

平成27年度 消防防災科学技術賞

作品募集

応募要領

◆募集区分

【消防職員・消防団員等による応募】

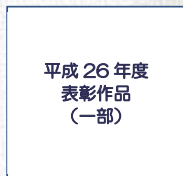
- (1) 消防防災機器等の開発・改良
 - (2) 消防防災科学に関する論文
 - (3) 原因調査に関する事例報告
- 【一般による応募】

- (1) 消防防災機器等の開発・改良
- (2) 消防防災科学に関する論文

◆応募受付期間 平成27年4月1日(水)～5月8日(金)

◆表彰 優秀な作品には消防庁長官から表彰状及び副賞が授与されます。

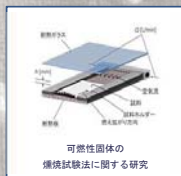
※一次審査を通過した作品はホームページにて紹介します。表彰作品の公表は9月頃の予定です。詳細は消防研究センターホームページをご覧ください。



平成26年度
表彰作品
(一部)



防火帽用防塵型
LED ライトの開発



可燃性固体の
燃焼試験法に関する研究



ペットボトルを利用した
訓練用人体の開発



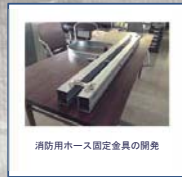
車両の前照灯(ハロゲンバルブ)
の取り付け不良による出火事例



救急車の視認性を高めるための
反射材の使用についての考察



多機能型乳幼児救助用
担架兼用棒の開発



消防用ホース固定金具の開発

お問い合わせ先
消防庁 消防研究センター 研究企画室
TEL:0422-44-8331 FAX:0422-44-8440 E-mail:hyosho2015@fri.go.jp
消防研究センターホームページ <http://nrifd.fdma.go.jp/>

支部情報アラカルト

『秋田県冬期防災訓練』

湯沢市で開催!!

湯沢市消防団

一月二一日(日)湯沢市皆瀬地区において「秋田県冬期防災訓練」が実施されました。

この訓練は、秋田県が特別豪雪地帯に指定されている市町村と共催し、今年度から全県持ち回りで実施されることとなったもので、湯沢市での開催が第一回目となります。

訓練では、一二の防災関係機関・団体と地域住民が協力し、雪崩で集



落が孤立した場合の救出・救護活動を行い、住民の自主避難、連携体制の在り方などを確認しました。

参加いただいた住民の皆さんからは、安否確認や避難所運営を通じて、備えの大切さを再確認したとの声が聴かれ、自助・共助の実践訓練による防災意識の高揚が図られたのではないかと感じました。

今回の訓練の結果を検証し、得られた課題や教訓等について今後の防災対策に生かしていくとともに、積雪時における地震等災害対策にも積極的に取り組んで参りたいと思っております。

〔情報提供 湯沢市雄勝郡支部〕



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成27年		平成26年			同期比較	
	3月	累計	3月	累計	年計	3月	累計
建 物	19	57	21	69	199	- 2	-12
林 野	1	1	0	0	46	1	1
車 輛	2	11	5	10	29	- 3	1
そ の 他	5	7	0	3	77	5	4
合 計	27	76	26	82	351	1	- 6
死 者 数	5	15	7	17	35	- 2	- 2
負 傷 者 数	10	32	7	29	61	3	3



トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

- (営業種目)
- トーハツ小型動力ポンプ
 - モリタ自動車ポンプ
 - ジェットホース
 - 消防被服全般
 - 火災報知器各種
 - 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp